

欠 け 処 理 施 工 手 順

■ 施工方法

樹脂系補修材を使った欠損補修

1 欠け施工前

施工前の状態



2 プライマー塗布

ホコリやごみを取り除き、樹脂用プライマーを塗ります。
*写真はアルブロンW-301を使用。



3 補修材の充填

少し硬めに練り上げた樹脂材料を塗り用金コテで塗っていきましょう。
*指で“ノロ付け”するとさらに接着がよくなります。
*写真はアルブロンHMを使用。



4 盛り付けた状態

仕上がり面より少し盛り上げて塗り、硬化するのを待ちます。



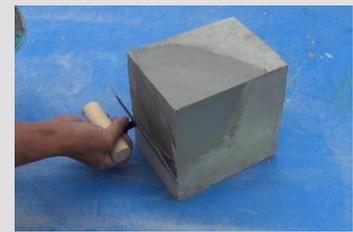
5 成形

#36の砥石を着けたグラインダーで少しずつ削っていきます。
仕上がり面と完全にフラットとなるように削りましょう。



6 下塗りと削り

清掃後、セメント用プライマーを塗り、リペレジを薄く塗りましょう。リペレジが乾ききる前にスクレーパーを使って余分な材料を削り落とします。
この工程で大まかな凹みや傷が消えます。



7 下地調整

Cリペライニングで境目を無くし、質感を整えます。
セメント用プライマーを塗り、補修部分を覆うようにCリペライニングを塗ります。乾燥後、#600ペーパーで余分な材料を落とします。



8 吹付け処理

少しずつCリペカラーを吹付けていきましょう。周囲と違和感が無く、下地との境目が消えればOKです。



9 模様付け

乾かしながら少しずつ模様を付けていきましょう。
時々#600ペーパーでこすりながら作業を進めます。
自然な仕上がりになれば完了です。



準備する物

- 練り用金コテ
- 塗り用金コテ
- ボウル
- スクレーパー
- 耐水ペーパー#600
- ワイヤブラシ
- 小バケツ
- 刷毛
- ウエス
- ワグナー
- コンプレッサー
- エアホース
- エアガン
- 模様付けパット
- ガストーチ
- ブロワー
- グライNDER
- 平面研磨砥石#16・#80

準備する材料

- リペレジ
- Cリペライニング
- Cリペカラー
- トーンカラー
- セメント用プライマー（ロイヤルW21を水で20倍程度に希釈したもの）
- 樹脂系補修材料（アルプロンHM等）
- 樹脂用プライマー（アルプロンW-301等）

■ 施工の注意点

- リペレジシリーズはプレミックスタイプの補修材です。水だけで練って下さい。強度を増すために接着剤等を混入した場合、硬化時間・色が設定と異なる場合がありますのでご注意下さい。
- 水で練り混ぜた物は残さず全部使用して下さい。**硬化が始まってからの再加水・練り返しはしないで下さい。**クラック・接着不良の原因となります。
- セメント系ですので、風化・吸湿性があります。保存には充分注意しなるべく早めにご使用下さい。（5kg内袋は、保存性を良くするためヒートシールしてあります。さらに、輪ゴムが袋に入っていますので、使い残した物の封にご利用下さい。）
- 補修の際は下地の余分な凹凸は予めハンマー・チス・スクレーパー等で取り除き、掃除をして下さい。離型剤が表面に残っている場合は特に剥がれ易くなります。ブラシ等で補修面を擦り、水湿すると効果的です。
- スクレーパーや金コテで手を切る恐れがありますので扱いにご注意ください。
- Cリペライニング、Cリペカラー等に記載されている**注意書きを必ずお読みください。**
- Cリペカラーに混和液を混入後は、24時間以内に使い切ってください。
- 吹付けする際、付着すると困るような箇所には予め養生してください。万が一付着したら水で濡らしたウエスで拭き取ってください。
- Cリペカラーは使用する際、しっかりと混ぜてご使用ください。混ぜ足りないとムラができる場合がございます。
- Cリペカラーは**少しずつ薄く吹き重ねるように**吹付けてください。一度に厚く吹きますと水滴が垂れてしまい仕上がりが悪くなってしまいます。『吹付け→乾燥→吹付け→乾燥…』と下地が見えなくなるまで繰り返してください。
- 模様付けは規則的に叩くと違和感がでてしまうので周囲の模様を参考に自然な風合いに一定になるよう軽く叩いてください。